

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福岡県】

福岡県立新宮高等学校

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	新宮高校第3学年生徒19名 福岡特別支援学校高等部生徒35名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (ボッチャ体験・交流) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	本校の生徒の実態として、常々、多様な社会環境において柔軟に対応できる力が低下し、高める必要性を強く感じていたため、パラリンピック種目を体験させ改善を図ろうと考えた。 「ボッチャ」は障がいの有無に関係なく、取り組める種目であることから、普段授業で実践されている福岡特別支援学校高等部生徒との交流活動を良い契機とし、共生社会に生きる力を育ませることを目標とした。
5 取組内容	12月7日(木)に本校にて事前学習を行った。ボッチャ競技のルールや競技方法をプリントにて簡易的に説明した後、交流活動の前に、福岡特別支援学校高等部教職員よりレクチャーを受けて、福岡特別支援学校高等部生徒たちとの活動に繋げた。 活動時間は2時間半程度で、活動初期より競技力のみならずコミュニケーション力が高まった様子が伺えた。また、報道機関(西日本新聞からの取材を受け翌日記事となった)を活用したことにより活動の内容を地域に広く広報でき、生徒達もよりボッチャ競技への関心を高めることができた。
6 主な成果	1ゲーム15分以内のゲーム時間であったが、各チームとのハイレベルな試合を展開することができた。 また、生徒同士で教え合いの場面が数多く見られ、共生の意識向上を図ることができた。今後、2020年東京オリンピック・パラリンピック種目に興味関心を抱き、積極的に関わろうとする意欲が芽生えるとともに、今回交流した福岡特別支援学校高等部生徒とのよりよい人間関係を構築させることに成功し、実践テーマである「スポーツを通じたインクルーシブな社会(共生社会)の構築」が達成できたと強く感じている。

	
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 交流先である福岡特別支援学校と事前の打ち合わせを十分に行い、交流計画を立てた。 • 障がいの有無に関係なく取り組めるボッチャを交流種目として設定した。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 交流後の事後学習の在り方について再検討する必要がある。 • 他の障がい者スポーツによる交流活動の検討
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 今年度の成果と課題を踏まえた上で、来年度以降もさらに充実させて実施していきたい。